

## 令和4年度第3回小平市社会教育委員の会議要録

と き：令和4年8月18日（木）午前9時30分から午前10時20分

ところ：市役所6階 大会議室

### 1 出席者

小平市社会教育委員 9人（1人欠席）  
傍聴者 なし

### 2 内 容

#### <議題>

資料に基づき、事務局から説明を行った。

- (1) 令和4年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第1回理事会（報告）
- (2) 第53回関東甲信越静社会教育研究大会 山梨大会  
（令和4年度 山梨県社会教育研究大会）

#### <事務局報告>

各課・各館より、実施事業等について報告した。

##### 【地域学習支援課】

- (1) 令和4年度姉妹都市小平町との少年少女交歓交流事業（報告）

##### 【公民館】

- (1) 公民館主催イベント（7月）について（報告）
- (2) 公民館主催イベント（9月）について

### 3 議題及び事務局報告についての意見・質疑応答

○委員 公民館イベントで、親子で楽しむ音楽会、タイムリー講演会、支援の立場で参加をさせていただいた。感じたことを少しお話しさせていただく。音楽会については、司会者が突然歌い出すとすごい歌声で、びっくりするイベントでした。そしてまた、子どもと親子の一体感というのはすごいと感じた。親子で楽しいひとときが過ごせるすばらしい企画だなと感じた。

そして、タイムリー講演会「ゲームだめだめ言わないで」、これも参加させていただいた。ゲームの歴史を過去から振り返りながら、ゲームをすること自体が、プログラミングのイメージになるとおっしゃっていた。

ゲームをすること自体が駄目なのではなくて、有益なことがあるというメッセージだけではなく、社会の変化に適應するために必要な知識、スキルが学べるというメッセージが伝わった。本当にすばらしい企画だった。

○委員 公民館主催イベント、資料No.5について伺う。

言葉の定義を伺いたい。Zoomによる配信は、一方向のように思えるが、これはウェビナーでやる予定なのか。折り紙とかを一方向的に配信しても子どもたちはついていけないのではないかと思う。Zoomの会議室による双方向でやってもらえる予定なのかと思って伺った。

もう一点は、ポンデドーナツを作ったことがないので分からないが、これをオンラインでやった場合、かなり危険な部分もあるのではないかと思うので、お母さんにやってもらうのか。私も実験教室をよくやるが、双方向でやった場合に、その場に専門家がいらないものだから、対処しにくいことが多いので、事前にかなり用意周到にしないといけないと思う。

あともう一点、小平町については、コロナ禍の中、感染状況の違う自治体に対して、小平の子どもを受け入れていただき、本当に暖かい対応だったと思う。一応確認だが、小平町の感染予防のマニュアルに準拠して問題ないということで受け入れられたのか。集団が行って、一気に感染すると、医療体制が非常に逼迫する可能性もあるので、確認させてほしい。

○事務局 まず、Zoomを使って双方向で実施する。講師の先生は中央公民館にお越しただいて、先生を映し出すカメラと先生の手元を映し出すカメラと2台使って、それを切り替えながらZoomに参加しているお子さんたちが作っていくという形になる。比較的折り紙は先生の手元を見てどのように合わせてやっていくかを見ていくので、お子さんだけでもできると思うが、ドーナツについては、昨年度も実施したが、やはり親御さんも一緒にごらんになられていて、ボールの中で小麦粉をこねたりした状態は、先生に画面上で見せて、そのぐらいこねてあれば大丈夫というのを確認しながら前に進んでいくという方法で実施をしていく。いずれも双方向で実施する。

○委員 ポンデドーナツは揚げ物ですか。要するに、揚げ物となるとすごく危ないと思った。

○事務局 揚げていたと思う。その瞬間を見ていなかったが、揚げていたと思う。

○事務局 小平町の関係で、1か月前に事前の研修を行っている。まず、もし行った先で感染した場合は、どういう対応をするということで、事前に対応方針のようなものをお互いに作って、健康観察を事前にしっかりしていくこととしていた。通常は3日前ぐらいから検温などを行っているが、それを10日前から行って、しかも家族の皆さんにもご協力をお願いした。また、行った先でかかった場合は、お迎えに来ていただくことにしていた。保険の適用になるので、ご協力くださいということでご理解いただいた。小平市のお子さん、保護者にご理解いただいた上での実施であった。

実際は、1人コロナに感染ということで、直前でキャンセルがあったが、感染者が発生する場合も想定した中での対応であった。もちろん小平町から中止してくれというお話があれば、前日まででも対応する心構えでいたが、やりましょうということだったので、行かせていただいた。行った先では感染等も特になく、大きなけがもなく無事帰ってくるのができた。感染拡大している状況でなかなか難しい状況だったが、実施させていただいた。

○委員 資料にない補足の説明であった広島への訪問について、どのようなスケジュールで行われたのか。

○事務局 8月5日、金曜日、朝7時40分に市役所に集合して、中学生9人と小学生1人、10人の子どもたちと一緒に広島市を訪問しました。まず、平和記念公園の原爆ドームや、みんなに作ってもらった折り鶴を捧げてくるなど、公園内を1日目の午後見学した。2日目、8月6日、土曜日の朝、5時前にみんなに起きてもらって、広島平和記念式典に参列した。外国の駐日大使が今回一番多く参加する予定ということも伺っていた。ただ、入場制限が厳しくて、小平の子どもたち10人全員入れるか最初は分からなかった。人数を絞ると言われていたが子どもたちは全員分チケットが来たが、指導者が一部入れなかった。子どもたちは式典に参加して、行ったときより終わった後は面持ちも変わっており、また、今週の土曜日に事後研修があるので、具体的な感想などはそのとき聞いて、次回に報告したい。

○委員 資料No.4の公民館主催イベントについて。1番の親子で楽しむ音楽会、お話を聞いたらすごく楽しい音楽会だったということで、親子でというところがポイントだと思う。やはり小さいときの経験はすごく大事だと思うので、親子で楽しむイベントをぜひこれからも継続していただきたい。

2番のタイムリー講演会は、これからのデジタル社会を理解する上で大変有意義な講演会だった。

プログラミングと一言で言っても、映像であったり音楽であったり、ゲームを組み立てるだけではなく、ほかの部分も技術が必要だということだった。そういう技術をデジタルでやっていくという、ゲームを組み立てることばかり考えていたが、映像のデザインとか音楽とか、そういうものもあるんだと改めて教えていただいた。そういうほうに進むのもキャリア教育の一環でいいのかなと思った。先生方に見ていただくということだが、最初は中学校となっていたのが、中学校がなくなったのはなぜか。先生方はもちろんだが、ぜひ保護者の方にも見ていただきたいと思う。保護者会など保護者がたくさん集まるときにそういうものを流していただければ有意義かなと思った。

○事務局 子どものゲームリテラシーを教育するのは低学年までであるということで、高学年、中学校になると皆さん言うことを聞かないというのが理由である。自分のスマホを持って一人でやっているのを教えるのは非常に難しい。そういった教育を進めていくには、小学校低学年が望ましいという趣旨から、まずは小学校の先生にご理解いただくのがよろしいのではないかという講師の先生のご意見と聞いている。

保護者に配信することについては、先生に講演会でお話ししていただいたことなので、先生にご了解をいただく必要があるので、先生に確認してからご案内をさせていただきたいと思う。

○委員 保護者会だが、感染症がこれだけ拡大している中で、なるべく短時間に要を得て行うべしということで、これは小平市内の小・中学校統一している。今まで保護者会というと、和やかにお一人ずつどうぞとしていたが、今は30分ぐらいで簡潔に進めるので、その中に講演会や研修的な内容、また協議的な内容を入れることが非常に難しい状況だということをご理解いただきたい。

それとはまた別に、学校のほうで、メール配信を行うので、そちらのほうに必要であればUR

L等を添付して皆さんに見ていただけるようにご案内することは十分できる。そういった形で有益な教育情報を流す、皆さんにお知らせするという事は現場では常にやっているの、そういった流れの中で、意識のある方々には見ていただくという事は十分できるのではないかと考えている。

○委員 タイムリー講演会について、電子メールで申し込んだ。本当に簡単に、しかも煩わしいことがなく、結果もきちんとすぐに来た。電子メールでの申込みをもう少し広く使えたらどうかと思った。

○事務局 電子メールでの申込みは、積極的にさせていただいている。どうしてもシニア世代の方の講座についてはうまく使いこなせない方もいらっしゃるの、併用して少しずつ増やしている状況。機会を捉えて積極的に今後も増やしていきたい。

○委員 ゲームが悪というキーワードが出てきたが、漫画は悪という言葉は使うか。今は、そういった偏見を持つ方はいないと思う。一方で、歴史の学習漫画というものが非常に売れていて、子どもたちのかなりの割合が漫画で学習している。今、ゲームの教育化という話が出てきたが、私は、文部科学省の示唆もいただいて、化学教材のコンテンツを作っていたが私はピュアなケミストリーの本を1冊作った。国際学会が発表していると、実はそういうゲーム化が必要なんだというのがどんどん出てきた。その学会の中に、あるセクションはゲームの人たちが入っている。ゲームの教育化、そうすると、私のようにアカデミックな者が作ったものとは全然出来が違う。子どもたちはすごく興味を持ちそうな本とゲームの教育化。結局同じところに向かっているのではないと思う。

留学してくるシンガポールの教育者と話していると、シンガポールの学校で、授業の中でゲームを取り入れることが普通に行われている。先生方がつくった市販のコンテンツかと思うようなゲームをやって、子どもは学習を先進的な取組として行われている。日本はすごくまだ遅れていると思う。

○委員 小学生のお子さんをお持ちの方に、図書館に行って歴史を勉強させたいから取っかかりとして漫画で勉強させたいと相談したらたくさん教えてくださったが、中央図書館はある程度充実していると思うが、市としてはまだまだ少ない。例えば、大河ドラマなどを見ていると、いろいろな名前が出てくるので一回通して学びたいと思ったときに、そういうコミック本があったらいいのと思うが見当たらない。もう少しそういう教育につながる漫画の充実をさらに検討していただけたらいいと思った。

○事務局 図書館では、歴史漫画については、去年から入れ始めている。これらはかなり人気があって、今夏休みで貸出しでかなり出てしまっていて、館の書架に残っているものがかなり少ない状況となっている。かなり利用が多いので、今後もさらに取り入れていきたいと考えている。

○委員

本日欠席されている委員からご意見をいただいているので、披露させていただく。

日程の第4、事務局報告、小平町との少女少女交歓交流事業について、行動制限こそ出ていないが、感染者数が多い中での県境をまたぐ移動に関しては、PCR検査等を実施したほうがよい

と考えている。コロナウイルスも収束する兆しが見えないため、今後の行事のためにぜひご検討をお願いします。

もう一つ、(2) No.5、友・遊こどもまつりについて、来場者が多く子どもたちが楽しみにしている行事の一つ。コロナが収束して対面による友・遊こどもまつりが開催できることを願っている。Z o o mによる開催は準備等大変なことも多いと思うが、市内のコロナの感染者もかなり増えているので、よい決断だと思う。今年度は紙芝居、科学実験がY o u T u b eにより受信できるとのことで楽しみにしている。Z o o m受信はできる人が限られると思うが、Y o u T u b eの視聴ならハードルが下がる。開催日までまだ時間がある。とてもよい試みだと思うので、新学期が始まってから全校児童に案内チラシの配付をお願いしたい。

こういうご意見を頂戴している。

**○事務局** 小平町のコロナのお話は、具体的な対応は先ほど少し述べさせていただいた。抗原検査キットを少し多めに持っていき、何かあればすぐこちらで確認をして、という対応をした。子どもたちの安全安心のために、すぐにできる対応はしていこうということで、小平町に行く飛行機を通常一つの飛行機だが、2便に分けた。また、通常、市役所から羽田空港まで電車とモノレールで行くが、市のマイクロバスを活用して、極力、他者との接触を避ける対応をした。